

能登半島地震に関する校長メッセージ

保護者・生徒の皆様へ

令和6年元旦に起こった出来事を私たちは生涯忘れることはできないでしょう。

能登半島を震源地とした最大震度7、マグニチュード7.6の大地震は、能登地方に甚大な被害をもたらすだけでなく、北信越を中心とした全国各地に大きな爪あとを残しました。

保護者・生徒の皆様におかれては、長く大きな地震の揺れにずいぶん怖い思いをされたのではないのでしょうか。また、断水等で不自由な生活を余儀なくされている方、避難場所で不安な気持ちと闘っている方もいらっしゃると思います。どうかご無理はなさいませぬよう、くれぐれもご自愛いただきたいと思ひます。

さて、既にこの度の地震によって本校CS棟前の地盤が崩落し、校舎下の支柱がむき出しとなった様子を報道等でご覧になった方も多いかと思ひます。生徒の皆さんが通学で使っていたW坂の階段も土砂に飲み込まれ、震災前と比べあまりにも変わり果てた姿に言葉がありません。

現在、崩落現場の調査や、安全に校舎を使用することが可能かどうかを含め、県教育委員会主導の基で検討を重ねているところです。生徒の皆さんが安心して3学期を迎えられるよう鋭意努めてまいる所存であります。解決すべき課題も多く、具体的な方策をお示しするには今しばらくお時間をいただくこととなります。

1月9日(火)以降の登校に関しては、近日中に一斉メール等でお知らせしたいと考えておりますので、そちらをご覧ください。また、本校校舎の震災被害に対する抜本的な対応につきましては、改めてご説明させていただく所存です。今後は様々な連絡を一斉メールやGoogle Classroomで行いますので保護者・生徒の皆様には見落としのないようご注意願ひます。

令和6年能登半島地震は、本校にこれまで経験したことのない大きな被害をもたらしましたが、今こそ「不撓不屈」の精神を発揮し、この難局を乗り越えるべく、保護者・生徒の皆様と本校教職員が一致団結し、「北陵高生の学びを止めない」を合い言葉に頑張つてまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和6年1月4日

石川県立金沢北陵高等学校
校長 中村 悟